

# ナシの補植における1株3樹植え1本主枝仕立てによる早期多収

農業総合センター園芸研究所

## 【研究の概要】

ナシ樹の改植（補植）において、1株3樹植え1本主枝仕立ては慣行の3本主枝仕立てに比べ幼木の樹体生育が良好で、定植5年目に成園並みの収量が確保できます。

## 【研究内容】

1株3樹植え1本主枝仕立て（新仕立て）は、慣行では枯死樹等跡地1箇所に1樹定植し、主枝を3本育成するのに対し、1箇所に1年生苗を3樹定植し、主枝を1本ずつ育成します。

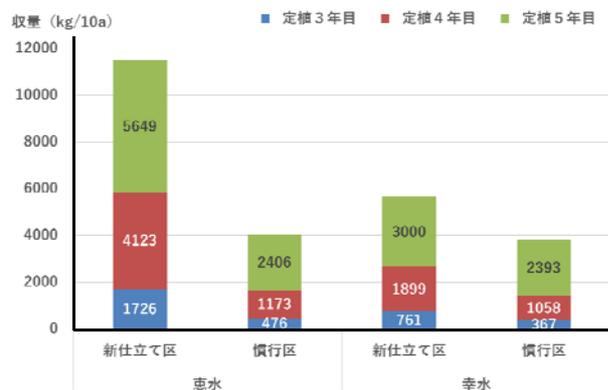
## 【研究成果】

新仕立ては、定植2年目の新梢発生数が多く早期に側枝を確保できるため、樹冠拡大が早く、慣行の3本主枝仕立てに比べ定植4～5年目の樹冠占有面積率が高くなります。



新仕立て区（左）と慣行仕立て区（右）の定植3年目の結実状況（平成28年8月）

・新仕立ての早期多収効果  
定植3年目で結実し、初結実から3年間の新仕立て区の累積収量は、「恵水」、「幸水」ともに慣行区よりも多く、いずれの品種も定植5年目で成園並の収量が確保できます。



仕立て法の違いが初期収量（10a換算収量）に与える影響

## 【将来の展望】

・新品種導入時におけるメリット  
仕立て法の違いによる累積収量の差は「幸水」に比べ「恵水」でより大きく、より一層早期多収効果が高い一方、果実品質は両品種ともに仕立ての違いによる差はなく同等です。新品種「恵水」を補植によって導入する際にもメリットが大きい技術です。